

2022年(令和4年)

7月例会

日時：7月16日(土)14時より

講師：日本学術振興会特別研究員 松尾梨沙

題目：ショパンによる「幻想」

——文学作品との関係をめぐり一考察——

司会：聖徳大学 近藤圭一

9月例会

日時：9月17日(土)14時より

講師：東京大学(東アジア藝文書院特任研究員)片岡真伊

題目：川端康成『名人』の英訳・受容における変容と伝播の諸相をめぐって

司会：東京大学 前島志保

INSIDE THIS ISSUE

1. 7月・9月例会案内(オンライン開催)
2. 例会要旨等
3. 東京支部短信

幹事会開催のお知らせ

第1回幹事会

2022年7月例会終了後オンラインにて開催します。

(幹事会構成員は、幹事、支部長、事務局長、各種委員会委員長、会計、会計監査です)

役員連絡会開催のお知らせ

2022年9月例会終了後、オンラインにて開催します。

(役員連絡会の構成員は支部長、事務局長、会計担当を含む事務局委員、各種委員会委員長です。委員会の委員、幹事は含まれませんが、陪席を歓迎します)

7月例会発表要旨

ショパンによる「幻想」 ——文学作品との関係をめぐる——考察——

日本学術振興会特別研究員 松尾梨沙

本発表では、ショパン (Fryderyk Chopin 1810-49) が作曲した一連のピアノ曲と、当時彼の最も身近に存在した文人や文学作品との関係から、彼が描こうとした「幻想 [仏] *fantaisie*, [波] *fantazja*」とは何だったのかについて、ひとつの考察を試みる。

ショパンが書いた作品で特に「幻想」に関わるものとして、《ポーランド風幻想曲》作品 13 (推定 1828 年作)、《ポロネーズ》作品 44 (1841 年作、作曲家自ら「一種の幻想曲」と呼んだ作品)、《幻想曲》作品 49 (1841 年作)、《ポロネーズ幻想曲》作品 61 (1846 年作) の四曲がある。明らかに他の三曲とは違いポプリ様式の協奏曲である作品 13 を除くと、他は全て 1840 年代に作曲されている。この一連の「幻想曲」を書き出す何らかのきっかけはあったのか。

1839 年、当時彼と同棲していたサンド (George Sand 1804-76) が『幻想的戯曲に関する試論』を発表した。この論考ではミツキエヴィチ (Adam Mickiewicz 1798-1855) の『父祖の祭』第三部が、『ファウスト』や『マンフレッド』以上の「幻想的世界」と絶賛されている。ショパンは発表前の彼女の原稿を読んで感激した旨を友人宛の書簡で記しているが、『父祖の祭』第三部はポーランド分割が歴史哲学的視点で書かれており、当時ロシア帝国支配により亡命ないし戦闘を余儀なくされていた彼らにとって、カトリック精神を貫く重要な作品だったことは間違いない。

本発表では『父祖の祭』に加え、サンドがショパンとマヨルカ島滞在中に書き上げた小説『スピリデオン』(1839 年刊) も比較参照し、彼らの意図した「幻想」がその後のショパンの創作に影響しえたか、楽曲分析を交えながら検討する。現在のウクライナ危機を踏まえつつ、民族、思想、芸術が交錯した 19 世紀の一場面の投影を試みたい。

9 月例会発表要旨

川端康成『名人』の英訳・受容における変容と伝播の諸相

東京大学（東アジア藝文書院特任研究員） 片岡真伊

川端康成(1899-1972)の没後50年を迎える中、本発表では川端が自死を遂げた1972年に刊行された『名人』の英訳 *The Master of Go* に焦点を当てたい。

『名人』は、川端自身が自著の中で愛着を抱いていた小説であることは知られている。同著の英訳 *The Master of Go* (tr. by Edward G. Seidensticker, New York: A. A. Knopf, Inc., 1972) は、囲碁という難解で神秘的(esoteric)な題材を用いていることから、英訳版の刊行が実現するまでに時間を要した。だが、英訳版『名人』は、出版を手がけた米クノッフ社が当初想定していた以上の売り上げをみせるのみならず、移植先の読者たちに刺激を与え、思わぬ伝播をみせている。なぜ同著の英訳が関心を集めたのか、そして受容先の読者はいかなる要素に心動かされたのか。本発表では、翻訳・受容過程において生じた「読み」の変容の実相を紹介すると共に、その結果、同著のいかなる側面が異言語・異文化圏に移植された際に触発源となったのか、その諸要因や受容・伝播の具体的諸相を、川端の死や盤上演戯を題材とする先行翻訳文学、そして当時の国際情勢、すなわち冷戦期における米対ソ連の緊張関係との関わりから明らかにする。

英訳版『名人』は、第二次世界大戦後、英語圏で次々と刊行された川端の翻訳群とは大きく異なる受容の形や変遷を遂げている。その変遷の過程を詳らかにすると共に、異文化圏に移されたからこそ浮き彫りとなる原著の有する主題やモチーフに光を当てたい。

東京支部短信

当面の例会運営に関するお知らせ

- ① 例会開催の概要は、これまで印刷物のニューズレターで年2回、3月と9月にお知らせしてきましたが、今後は、年4回に分けてホームページに情報を掲載する予定です。3月に4月、5月分の、6月に7月、9月分、9月に11月、12月分、さらに11月には翌年1月、3月分の例会情報（日時、発表者名および題目、要旨）を掲載します。
- ② オンラインによる例会開催については、当面、以下のように連絡する予定です。
該当月の例会開催日の1週間前に、支部会員向け一斉メールで、開催内容（ホームページ掲載と同様）とともに、当日Zoomに入室するためのURLを送付します。その際、ホームページにも、会員に入室用URLを送付した旨を掲載しますので、メール不着の場合は事務局にご連絡ください。
- ③ 例会開催時は、従来配付していた発表者の資料は、画面共有で見えることを基本とします。発表を希望される方は、パワーポイントやワードなどで、当日の資料を作成することをご確認ください。なお、資料は、発表原稿そのものではないものとします。また、発表者は、音声のみの参加ではなく、カメラ使用を基本とします。
- ④ Zoomへの入室は、メールで送付された入室用URLをクリックすれば可能です。当日の参加に際しては、発表中はカメラ・音声をオフにさせていただきます。

電子版『日本比較文学会東京支部研究報告』への投稿について

電子版『日本比較文学会東京支部研究報告』は、毎年一回、3月末日に発行されます。新型コロナウイルス感染症の流行が続き、研究発表の機会が少ない現状に鑑み、研究論文投稿資格を有する者は、**東京支部会員のすべて**とします。なお、多くの大学、研究機関では電子的な方法で発表された論文についても、正規の研究業績として認められています。投稿論文の提出期間は11月1日から11月30日まで、送付先は下記の通りです。ふるって投稿ください。お待ちしております。

日本比較文学会東京支部編集委員会委員長 椎名正博 pegasus@w2.dion.ne.jp
詳しい投稿規定および執筆要領、投稿用のテンプレートは東京支部ホームページに掲載されていますので、どうぞご覧ください。ご質問がある方は支部事務局に電子メールでお問い合わせください。

月例会発表者募集

支部月例会の発表者を募集しています。申し込みは支部事務局 (hikakubunga kutokyo@gmail.com) に氏名、所属、題目、連絡先(メールアドレス、電話)を明記したうえで、600～800字の要旨を添えて電子メールで送信、または郵送でお願いいたします。支部役員に託されても結構です。発表時間は45分(質疑応答を除く)です。

東京支部事務局より「お知らせ」の配信について

東京支部では支部会員みなさまにメールマガジンの「お知らせ」をお届けしています。原則として毎月1日発行で、例会や支部大会などの情報を掲載しています。これまでお手元に届いていない方は、日本比較文学会東京支部の支部会員のページの「お知らせ」のウェブサイト (<https://www.hikakutokyo.com/mm>) のフォームにご記入のうえ「配信希望」をクリックして下さい。メールアドレス変更の場合も、お手数ですが、新アドレスで再登録をお願いします。

日本比較文学会東京支部ニューズレター 134号

発行人：佐藤 宗子

編集委員会(編集担当)

委員長：椎名 正博

委員：鈴木 美穂 堀江 秀史 安元 隆子 庄子 ひとみ

事務局

事務局長：源 貴志 会計担当：南平 かおり

事務局委員：川野 礼音 小泉 泉 土田 久美子

芳賀 理彦 畑中 健二 蒔田 裕美

JCLA

日本比較文学会東京支部

事務局住所

〒162-8644

東京都新宿区戸山1-24-1

早稲田大学 文学学術院

源 貴志研究室

TEL: 03-5286-3725